

**クラウディア・デーリヒス (マールブルク大学)**

**1960年代以降の院外野党： スチューデントパワーから武装闘争に至るまで**

日本とドイツにとって、1968年という年は社会に大きな影響を与えた年であった。しかし「68年運動」は、1968年にはすでにいくつかの点で、他のヨーロッパ諸国のそれに比べ、より多くのことを経験していた。新左翼が日本に誕生したのは1957年のことであり、それは70年代に至るまで非常に活発に活動した。また60年代末期およびそれに続く運動の展開を見ると、日本とドイツ／ヨーロッパの間に類似現象があることがわかる。たとえば「赤軍派」の設立といった領域において。しかしながら、ドイツ／ヨーロッパと日本における類似した運動の展開は、注意して観察されなければならない。というのも、それぞれの国におけるそのつどの文脈が、新左翼運動の発生やその後の政治的発展にとって、決定的な重要性を持っていたからである。その相違は、それに続く数十年間の全体的政治展開に映し出されることになる。

この講演では、60年代以降の日本における新左翼の展開について検討する。それはあるドイツ的な視点からどのように描写されるであろうか。またこの講演では、新左翼運動における特徴的な行動・組織形態について考察し、さらに70年代に起きたさまざまな世界政治的イベントを背景として、新左翼運動の過激派に対し日本政府がどのように反応したかという点とも比較する。最後に、その後数十年におけるさまざまな運動の展開に対する評価を行う。

この講演で明らかにしたいのは、60年代の「スチューデントパワー」という潮流の中で同じような出発点を持ちながら、時の経過とともにそこから非常に異なったさまざまな現象が生じてきたという点である。このことが、両国における「新社会運動」（環境保護運動、平和運動、女性解放運動）の形成とその社会的作用に、ある影響を与えたという推測も可能であろう。

\*\*\*\*\*

クラウディア・デーリヒス

1965年生まれ。ボン大学で日本語とアラビア語、政治学を学ぶ。アカデミア・ネット会員(<http://www.academia-net.de/>)、マールブルク大学政治学教授。専門は比較政治学および国際発展論、重点地域は東南アジアと近東。日本関連の近著：『東アジアの政治システム入門(*Einführung in die politischen Systeme Ostasiens*)』(mit T. Heberer, Hg.) (2008)、『ジェンダーのダイナミクスとグローバリゼーション(*Gender Dynamics and Globalisation. Perspectives from Japan within Asia*)』(mit S. Kreitz-Sandberg, Hg.) (2007)。